

公表	事業所における自己評価総括表
----	----------------

○事業所名	社会福祉法人 春濤会 ひまわり			
○保護者評価実施期間	R7年 10月 1日		～	R7年 10月 31日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	26世帯	(回答者数)	23世帯
○従業者評価実施期間	R7年 11月 1日		～	R7年 11月 30日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数)	3名
○事業者向け自己評価表作成日	R7年 4月 30日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	社会福祉法人春濤会の安全安心な環境の中で、子ども達存分に身体を動かし自由に遊べる環境を提供しています。	多目的ホール、芝生広場、中庭など守られた広い敷地の中で、用途に即した遊びを選び提供しています。お子さんが安心して過ごせるよう、スタッフとの関係構築を基盤とし、安全な環境の中で、思存分身体を動かし遊びに熱中できるよう支援をしております。「明日も来たい」と思える居場所となり、学齢期に必要な遊びや様々な体験を通し、子どもらしく健やかな育ちを支えられるよう支援をしています。	支援者側には、子どもの興味関心を引き出すような関わりが求められてきます。遊びの引き出しを増やすことは勿論ですが、「意図的な遊び」を提供し、お子様の個々の成長に繋がられるような支援を目指していきます。
2	ご家族とのコミュニケーションを大切にしながら、思いに寄り添う丁寧な家族支援を心掛けています。	日々の送迎時において日頃の活動報告を伝えさせていただいていますが、特記でお伝えしたい内容については個別でメールやお電話で連絡をしています。また、月に1回程度、お便りを発送し活動内容についてご家族にお伝えするようにしています。ご家族の思いや悩み等にお応えできるよう、日々のコミュニケーションを大切にすると共に、必要な情報提供を共有させていただいています。	令和7年度より、活動報告のメールが一旦中止となります。その為、お子様の活動内での様子については、月間通信物でお伝えをさせていただくことにしました。他、活動内でお子さんの気になる様子などについては、メールまたは電話で個別にご連絡をさせていただきます。
3	子どもの思いを尊重し、「やりたい」を実現できる手厚い支援を目指しています。	法人全体の理念として、子どもの思いを尊重し、子どものありのままの姿を受け止める姿勢を職員全体へ養っています。当事業所も、法人理念の基、子どもの思いを受け止めながら、興味関心や好奇心を養っていけるよう、様々な余暇活動を提供し、「やりたい」「できた」という達成感を感じられるよう支援をしています。	科学的根拠に基づいた知識の中で、意図的な遊びに繋がっていくことが課題となっています。児発管を中心とし、勉強会や研修機会を積極的に設定し、スタッフ全体の支援の底上げを図っていきます。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	対象年齢が小学部6年生までに限定されており、小学部卒業後の支援提供ができません。	一番利用ニーズが高い小学生を対象に事業を運営しており、小学生のみで定員を満たしています。また、中学生以上をお預かりすることを検討している中で、様々な年齢のお子さんと一緒に活動する上での安心安全な活動内容や環境等を見直していく必要があります。	地域の実情を調査し、必要なニーズの把握に努め、今後の事業展開や拡大を検討していきます。また、日中一時支援事業を開始し、中学生以上のお子さんの預かり先を確保する等、緊急的なニーズに対応していきます。
2	広範囲での送迎対応が難しく、ご家庭のご要望にお応えしきれな面があります。	送迎範囲を広げることでスタッフの勤務時間を超過してしまうことや、運転手の不足からご家庭のご要望に対応できない状況にあります。その為、送迎範囲の限定や、ご家庭に対して時間指定等のご要望を自粛してもらうなどのご相談をしています。	スタッフの勤務時間をシフト制にする、新規事業の拡大を検討する等、各ご家庭のご要望にお答えできるよう検討しておりますが、現段階では未確定です。
3	現状に留まらず、より質の高い支援を目指していく必要があります。	科学的根拠に基づいた支援を目指しておりますが、事業所として目指す専門性の習得までには至っておりません。研修制度や勉強機会等を十分に活かできていないことが課題と感じています。	R7年度は児発管を中心とした、定期的な勉強会やケースカンファレンス等の研修を重点的に実施していきます。また、必要に応じては、同法人内の児発センターより助言をもらいながら、専門的な支援の質の向上を目指していきます。

	公表	保護者等からの事業所評価の集計結果
--	----	-------------------

事業所名	社会福祉法人 春濤会 ひまわり
------	-----------------

公表日 R7年4月30日

利用児童数 R7年3月31日 26名 回収数 23世帯

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わからない	ご意見	ご意見を踏まえた対応
環境・体制整備	1	こどもの活動等のスペースが十分に確保されていると思いますか。	23				・屋内も屋外も広々としており、恵まれた環境であると思う。 ・屋内外共に、広いスペースで助かっている。	
	2	職員の配置数は適切であると思いますか。	21	2			・支援の内容には十分満足しているが、スタッフの人数が足りているか心配になる。 ・子どもの特性を十分考慮した計画を作成してもらっていると感じている。	・スタッフ以外にもパートや学生バイトを雇用し、必要配置数よりも多い人数を確保しています。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっていると思いますか。また、事業所の設備等は、障害特性に応じて、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされていると思いますか。	20	2		1	・設備がわからない(複数意見あり)	・ご契約前に施設を見学して頂いているため、施設設備等についてはより丁寧に説明をさせていただきます。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっていると思いますか。また、こども達の活動に合わせた空間となっていると思いますか。	23					
適切な支援の提供	5	こどものことを十分に理解し、こどもの特性等に応じた専門性のある支援が受けられていると思いますか。	22	1				
	6	事業所が公表している支援プログラムは、事業所の提供する支援内容と合っていると思いますか。	22	1				
	7	こどものことを十分理解し、こどもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、放課後等デイサービス計画（個別支援計画）が作成されていると思いますか。	23					
	8	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」で示す支援内容からこどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されていると思いますか。	23					
	9	放課後等デイサービス計画に沿った支援が行われていると思いますか。	23					
	10	事業所の活動プログラムが固定化されないよう工夫されていると思いますか。	22	1				
	11	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会がありますか。	22	1				
ご こ ろ	12	事業所を利用する際に、運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明がありましたか。	23					
	13	「放課後等デイサービス計画」を示しながら、支援内容の説明がなされましたか。	23					
	14	事業所では、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会や情報提供の機会等が行われていますか。	10	6	5	2	・クリスマス会等の親子行事はあるが、それ以外は特に設けられていない。 ・必要性は感じていない。	
	15	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの健康や発達の状況について共通理解ができていると思いますか。	23				・日頃から送迎時やメールでやりとりをしてくれ、助かっている。	・令和7年度より、メールで活動報告を中止させていただくにあたり、別の形で皆様にお子さんの活動様子をお伝え出来るよう検討しております。
	16	定期的に、面談や子育てに関する助言等の支援が行われていますか。	23				・個別支援計画以外にも、相談等に迅速に対応してくれている。面談内容もじっくりと話を聞いてくれ、満足している。	・ご家族との繋がりを大切にし、思いに寄り添う家族支援を心掛けています。引き続き、ご家族と連携をとりながらお子さんの支援に努めていきます。
	17	事業所の職員から共感的に支援をされていると思いますか。	23				・子どもの特性を理解してくれ、一緒に子育てをしてもらっている。	・専門性の向上に努め、よりお子さんの適した支援を提供できるよう尽力していきます。
	18	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により、保護者同士の交流の機会が設けられるなど、家族への支援がされているか。また、きょうだい向けのイベントの開催等により、きょうだい同士の交流の機会が設けられるなど、きょうだいへの支援がされていますか。	12	6	5		・保護者同士のイベントがあれば嬉しいが、早急な必要性は感じていない。	・保護者、きょうだい同士が交流を持てる機会を積極的に設けられるよう、事業所としても検討をしていきます。

	19	子どもや家族からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に対してそのような場があることについて周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されていますか。	22	1			・相談に対しては迅速に対応してくれており、満足している。	・今後も丁寧な対応を心掛け、ご本人、ご家族共に安心して利用していただけるよう努めてまいります。
	20	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされていると思いますか。	23					
	21	定期的に通信やホームページ・SNS等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されていますか。	20	3				
	22	個人情報の取扱いに十分に留意されていると思いますか。	23					
非常時等の対応	23	事業所では、事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等が策定され、保護者に周知・説明されていますか。また、発生を想定した訓練が実施されていますか。	20			3		・感染症の対応研修では、実際の場面を想定したロールプレイ研修を実施しています。
	24	事業所では、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練が行われていますか。	20			3	・避難訓練を実施したとの報告はあるが、詳しい内容については不明	・避難訓練の様子などについては、月刊便りなどを活用し、お伝えをしていきたいと思います。
	25	事業所より、子どもの安全を確保するための計画について周知される等、安全の確保が十分に行われた上で支援が行われていると思いますか。	20			3		
	26	事故等（怪我等を含む。）が発生した際に、事業所から速やかな連絡や事故が発生した際の状況等について説明がされていると思いますか。	23				・活動内に起きた怪我については、丁寧な説明がなされている	・事故や怪我が無いよう、安心して過ごせる活動に努めていきます。
満足度	27	子どもは安心感をもって通所していますか。	23					
	28	子どもは通所を楽しみにしていますか。	21			2	・友達やスタッフ会うことを楽しみに通所している。 ・本人が安心して過ごせる場所になっていて嬉しい。	・引き続き、皆様に安心して過ごせる環境を提供していくと共に、ひまわりで過ごした時間が少しでもお子さんにとって有意義な時間になるよう、日々の活動を工夫していきます。
	29	事業所の支援に満足していますか。	23				・複数の事業所を利用しているが、ひまわりの話をすると子どもが笑顔になる。連絡帳のやりとりの中でも可愛がってもらっている様子や、丁寧な支援をしてもらい大変満足している。 ・大変満足している。不満は何一つない。 ・長期休みのタイミングで支援時間が変更となる為、親の就労時間を調整する必要があり苦慮している。スタッフの労働時間との兼ね合いがあることは、十分理解しているが、何とかならないかと思う。 ・子どもについてアドバイスをしてもらい、とても助かっている。	・今後も、放課後という心身ともに解放される時間を有意義に過ごせるよう、専門性の向上はもちろんのこと、日頃の支援等を振り返り充実した活動が提供できるよう尽力して参ります。 ・長期休みの支援時間については、大変心苦しく思っております。全ご家庭のご要望にお応えることが難しいですが、今後も、より良い支援が提供できるよう、必要に応じて事業内容を再検討する等していきます。

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		社会福祉法人春濤会 放課後等デイサービスひまわり			公表日		R7年 4月 3 0日		
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		施設内の広い敷地を活用し、教室、ホール、グラウンド、芝生広場などの十分なスペースを確保しております。	お子さんと個別で過ごすためのスペースがないため、施設内で場所の確保が出来るよう検討していきます。			
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		正規スタッフの他、学生アルバイトやパートも活用し、適切な職員配置をしています。	持続可能な運営体制を整えていく中で、常に適切な配置数を検討していきます。			
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		各活動部屋の明示や掲示物は、子どものわかりやすさに配慮し、生活環境を整えています。 施設内には、身体障害者用トイレやエレベーターがあり、適宜活用しています。	施設内全てがバリアフリー化されていないため、場所によっては不便が生じてしまうことがあります。			
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		清掃パートを雇用し、毎日必要箇所の掃除をしています。毎日の活動後にも必ず活動場所を掃除や危険個所の確認を行い、安全で衛生的な環境の維持に努めています。				
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		個別対応が必要な場面では、施設内の静養室等を使用し対応をしています。	静養室等も法人内で共有しているため、常時の活用ができません。今後、必要に応じて個別対応の方法を検討していきます。			
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		毎日のミーティングや月ごとの会議で、スタッフ全員で支援や業務の進捗を確認し、振り返りや検討をしています。	業務の効率化に向けた取り組みが必要です。職員各自の意識向上を図ります。			
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		保護者評価を実施し、業務改善に繋げています。事業所からの回答については、ホームページに掲載をしています。	事業所評価の結果を各ご家庭にお伝えし、改善内容を確認してもらいたいと考えています。			
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		毎日のミーティングや月ごとの会議の他、育成面接など様々な場面で、職員の意見を吸い上げる機会を設けています。必要な事項には、チームでタイムリーに検討・改善をしています。	改善箇所の振り返りをより丁寧に行い、結果の検証を習慣化させていく必要があります。			
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○	現段階で、第三者委員会等の外部評価は受けておりません。	今後の事業運営の中で、第三者による外部評価を検討していきます。			
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		法人内研修や外部研修等に積極的に派遣をして、質の向上に努めています。	研修機会以外にも、自己研鑽を支援する制度を整え、職員一人一人の専門性の向上を目標に、事業所としてバックアップしていきます。			
	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		ホームページに公表済みです。				
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		アセスメント、モニタリング、意向調査などの過程を経て、お子さんに必要な支援を考えます	より職員の専門性を高め、適切なアセスメントと併せ、科学的根拠に基づいた支援を展開できるよう、さらなる努力をして参ります。			
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児発管と担当職員が中心となり、お子さんの支援計画を作成しております。多角的な視点をを用いて、お子さんにとって最善の利益を考慮した計画作成に努めています。	職員全体の基本的なアセスメント力を高めていく必要があります。			
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		作成された支援計画については、適宜支援内容を職員全体で見直し共有をしています。				
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		フォーマル・インフォーマル共にアセスメントは適宜行っております。	より精度の高いアセスメントができるよう、ツールの活用を検討します。			

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		左記の内容に対しては、サービス計画に詳細に記載し、保護者様には面談時にご説明をしています。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		毎月の会議や日々のミーティングの中で立案し実行をしています。	プログラムの振り返りを、分析し検討していく必要があります。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎月の会議や日々のミーティングの中で立案し実行をしています。	長期休み等はプログラムが固定化してしまうことがある為、事前の計画・準備は必要です。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		お子さんの特性や状況に合わせて、支援内容を計画しています。必要に応じて個別の対応を行い、お子さんがより安心して活動に参加できるよう支援をしています。	個別活動については、より玩具や教材を増やし、広がりのある支援プログラムを提供していきたいと考えています。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		毎日活動前にミーティングをし、その日の留意点やお子さんの状況確認等をしております。	活動の振り返りが不十分なため、十分な時間を確保していくよう工夫が必要です。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。		○	ヒヤリハットについては必ず毎日確認をしています。活動当日に支援を振り返る時間が十分に取れないため、翌日のミーティング時に確認するようにしています。	活動当日に振り返りをすることが望ましいため、時間等の調整を検討していく必要があります。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		活動内の様子に限らず、支援に纏わる内容については個別で記録を残しています。	記録内容に偏りが生じないよう、全員が統一した内容で記録できるシステム構築が必要です。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		サービス計画の作成前にモニタリングを行い、支援を見直しを行っています。	支援内容に偏りが生じてしまうことがあるため、モニタリングに不備が生じてしまうことがあります。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○			
関係機関や保護者との連携	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		活動場所や活動内容の選択は、毎回お子さん自身が決められるようにしています。自己決定をする力を養うため、様々な遊びの経験に促したり、コミュニケーションツールを活用するなどして、お子さん自身で決定できるよう支援をしています。	意思の表出が難しかったり、遊びに対する関心の幅が狭いお子さんに対して、十分な支援が提供できていないと感じています。お子さんの好みや特性を十分に理解しつつ、より工夫を重ねて行きたいと考えています。
	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		児発管や管理者が参加しています。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。		○	就学前の通園先と連絡を取り合い、必要に応じて情報共有をしています。	医療機関等とは必要に応じて、保護者様のご協力の基、連携を図っていききたいと考えています。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		保護者様から頂いた年間計画や月間計画に沿って、各学校の情報を把握しております。また、下校時間等の変更については、保護者様よりメールで連絡を頂いています。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		就学前の通園先と連絡を取り合い、必要に応じて情報共有をしています。また、同法人内の児発センターと連携しています。他事業所に於いては、ご家族様の了承の基、情報提供依頼をしています。	連携先が限られているため、必要に応じて広げていく必要があります。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。		○	ご依頼を頂いた場合は支援をさせていただきますが、現在は実例がありません。	新しい環境に巣立っていくお子さんの為にも、積極的に移行支援に携わっていきたいと考えています。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		同法人内にある児童発達支援センターとは密に連携を取り、必要によりスーパーバイズを受けています。	法人外の児発センターと更なる連携を取っていく必要があると考えています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。		○	地域活動の中では、近隣の公園など遊びに行く機会がありますが、子ども同士が交流をする場は設けていません。	公園などで交流する機会がある場合は、スタッフが間に入り関わりを設けていきます。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	○		障害児支援連絡会の幹事として参画しています。	

	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		日々の活動様子についてはメールでお伝えすると共に、送迎時にも口頭でお伝えしています。また、ご家庭の相談に対しては、メール、電話、対面などご要望に応じて対応をしています。	令和7年度より、個別での活動報告ではなく、月刊便り及び一斉報告にて、保護者の皆様に活動の様子をお伝え出来るよう検討しております。また、保護者様からの相談に対しても、変わらず迅速に対応をしていきます。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。		○	集団による支援は行えておりませんが、個別の相談にはその都度対応をしています。	必要に応じて、ご家族参加型の研修機会を検討していきます。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		契約の際に、説明をさせていただいています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		契約時に、ご家族やお子さんのご意向を確認しています。また、サービス計画書を作成する前には、必ず意向調査を行い、反映をしています。	
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		新しいサービス計画を開始する前に、保護者面談を行い、丁寧な説明を心掛けています。	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		ご家族からのご要望に対しては、即座に対応し面談や電話で助言をさせていただいています。	お子さんの状態や、ご家庭の様子によっては、事業所からもより積極的な働きかけをしていきたいと考えています。
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		○	共働きのご世帯が増えたことにより、平日は参加人数が減ってしまうため、令和5年度より保護者会は中止とさせていただきました。	運営方針等につきましては、年度の始め等に書面でお伝えをさせていただくことを検討しています。
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		苦情相談窓口を設置し、迅速かつ適切な対応をしています。	ご家族と認識の齟齬が無いよう、丁寧な説明ややりとりを心がけていきます。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		定期通信等でひまわりの様子をお伝えしています。	令和6年度は定期的な発信が出来なかった為、令和7年度は活動報告も兼ね、月間報告を通じて活動の様子をお伝えさせていただきます。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		個人情報、施錠管理をしています。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○			
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○	現時点では、地域住民の方を招待するような行事は行っていません。	必要に応じて、法人内で検討をしていきます。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		各種マニュアルを用意し、職員に指導しています。毎月、法人合同で避難訓練を実施しております。実施時は、ご利用されたご家庭に	各種マニュアルに関しては、ひまわり玄関に設置はしてありますが、年度ごとに周知できるよう検討していきます。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		年間計画の中で、非常災害に備えた訓練を実施しています。またBCPを策定し、非常災害に備えています。	非常災害発生時を想定した備えをより徹底していく必要があると考えております。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		契約時のインテークを基に、持病等に関する情報を確認しています。注意事項や緊急時の対応法については文章化し、全スタッフで共有しています。	見直しや確認を、より細やかに実施していく必要があります。
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。		○	現在、対象のお子さんがいません。	今後、対応が必要なお子さんが利用をする場合には、栄養士と情報を共有し、安全な食事提供をしていきます。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		定期的に活動環境を点検し、安全面を確認しています。不具合が生じている箇所については、早急に法人内担当者へ報告をし修復等の対応をしています。	スタッフだけでは修復できない箇所に付いては業者に依頼を掛けるなどしていますが、その場合は修復までに時間がかかることがあります。
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。		○	安全計画を作成し対策していますが、細かな情報までご家族にお伝えするまでには至っていません。	契約時に緊急時等の対応はお伝えしていますが、改めて安全計画をお伝えする項目を設けていきます。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		毎日、活動終了後にヒヤリハット確認をしています。挙げられた内容については、スタッフ間で対応を検討し、翌日より実行→振り返りをしています。	

	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		年に数回、虐待防止研修を開催しています。現場の実情と照らし合わせ、学んだ内容を日々の支援に反映させています。	学習内容について、適切な知識の習得に繋がられるよう、適宜振り返り検討する場を設けていきます。
	54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。		○	身体拘束の適性化については、契約時等に保護者へ説明をし、マニュアルに沿って対応をしています。現在、対象のお子さんがいないため、サービス計画に記載はありません。	行動障害等で身体拘束が必要となるケースに付いては、事前に保護者に説明をし、書面を介して承諾を得るよう、サービス計画に記載をしています。